

第7回石狩市地域自治システム検討会議会議録

【日時】 平成26年3月18日(火)18:00～

【場所】 石狩市役所 201会議室

【出席者】 竹口委員、池田委員、酒井委員、中島委員、貝田委員、嶋田委員、遠藤委員、米倉委員、羽田委員、阿部委員、北原委員、廣長委員、高野委員、上ヶ嶋委員
(事務局 森本・山田・清水、畠中、門井)

【オブザーバー】 佐藤教授

【会議内容】

■次第1 開会

■次第2 議事

① 地域意見交換会の開催結果について

～ 事務局から、資料別紙1に基づき開催結果についての説明 ～

《竹口会長》

この資料を見ますと、もう地区社協として取り組んでいることではないか、二番煎じではとの声がありました。第1回目の会議と同じような意見が出ております。過去の様々な事例から、若干市に対するアレルギーがあるのかと思われます。

《中島委員》

市のパフォーマンスで終わるのであれば、社会福祉協議会で行っている取り組みを引き継いでいけばいいのではないのでしょうか。このシステムは良いことだというのは間違いのないと思います。町内会の方々に理解を得られるような活動をしていけば、賛成の声が増えると思います。

《北原委員》

社協が今取り組んでいることと、この地域自治システムは似ているところがあり、このシステムの一部を社協がやっているような感じです。社協としてはとても期待をしています。同じような活動をするのであれば、もう少し幅を広げて地域の方々・皆さんが参加でき、目的に沿った動きができれば一番良いと思います。

《貝田委員》

意見交換会の内容を見てみると、高齢者問題に意見が集中しすぎています。どの年代の人たちもこの地域で生活していて良かったと思えるために、「このような活動をしていきたい」と皆で考えて行くのも大切ではないのでしょうか。色々な課題の中の1つであるので、具体的なイメージを持ちすぎず、幅広く地域課題を集めるという姿勢で、私たちも含めた地域のリーダーたちが柔軟に活動していかなければならないのではないのでしょうか。

《竹口会長》

地区によっては、若い世代の町内会もあります。学校の問題・子どもの問題・健康づくりの問題など、色々なテーマを取り上げて行くべきだと思います。最初から大きな目標を掲げても、達成できずに終わってしまうこともあるので、できることから積み重ねていきたいと思います。

《羽田委員》

単一の町内会をモデルにするのであれば、もっと小さな範囲での会議をしないと、詳しい問題点は出てこないと思います。地区社協と町内会でやっていることは具体的に何があるのか、重なる部分も出てくると思います。それらで出てきた問題を私たちが解決するのではなく、参加した方たちが解決することで、具体的なものが見えて来ると思います。今やっている会議も、終わったらそれまでという感じで、断片的にしか分からない状態です。このような会議の時間を設けているのだから、せめてその後の詳しい会議の内容も知りたいです。

《阿部委員》

最終的にはその地域に住んでいる方たちの意識が重要だと思います。生活している中で困っていることはたくさんあると思います。それが町内会や色々な組織で解決はされても、その地域に住んでいる人の意見が反映されているのかが大きな課題です。市の機関や地域に問題を投げかけても、どのルートで課題解決をしているのか分かりにくく、情報が伝わらないことも多いです。この地域自治システムのような組織が立ち上がることで、行政組織も変わり、町内会の意見が挙げやすくなれば、この提案はとても良いものになるのではないかと思います。

《竹口会長》

花川北地区では、学校支援を行っています。具体的には、検定員や低学年にスキー学習での装具の脱着方法等を教えたり、登下校時に横断歩道の見回り当番をボランティアで決めたりしています。高齢者の見守り等も含めて、地域自治システムに取り入れて行けばいいのではないかと考えております。

②「石狩市地域自治システムの基本的な方向性」について

～ 事務局から、資料別紙2に基づき説明 ～

《竹口会長》

本日の会議でこの案件が決定されますが、意見などがございましたらお願いいたします。

《阿部委員》

実際やってみてどうなのか、経過を見ながら改善していく点などはどのように検証していくのでしょうか。

《高野委員》

本来なら検証期間1年間は短いと思いますが、1年を目途に検証をしていきたいと考えていま

す。

《竹口会長》

検証した結果を見て、意見を吸い上げるということですね。今後の課題として検討していただきたいと思います。

《佐藤教授》

資料の4ページ下にある「モデル実証のイメージ」を具体的に教えてください。

《阿部委員》

石狩市は地域支援本部を立ち上げており、毎年、活動報告集を出しています。このように、情報を共有し、目に見える活動をした方が良いと思います。

《竹口会長》

実証結果を報告集でまとめるのは、今後の参考になると思います。

《北原委員》

4ページ中段の「モデル地域の実証」で、実証地域数が1地域になっていますが、今後増やす予定はあるのでしょうか。そして、モデル地域の実証を経て次のステップへ進むときに、今この会議をしている委員で会議を継続できないのでしょうか。

《加藤部長》

第1回目の会議の時に、地域自治システム検討会議実施要項を定めておりますが、その中で平成25年度と特に定めておりませんので、このまま必要に応じて、委員の方からのアナウンスや周知をしていただきたいと思いますと考えております。

《竹口会長》

望ましい回答ありがとうございます。

《佐藤教授》

地域自治システムの在り方は、各地域によって違うと思います。各地域会議などで情報交換することで、様々な地域で重なる部分が出てくると思います。地域の方たちの繋がりを作ることで助け合いがしやすくなり、顔が見えてくる地域になると思います。地域と市役所が一体となれば良いのではないかと思います。

《竹口会長》

それでは、地域自治システムの基本的な方向性を決定したいと思いますがよろしいでしょうか。

～ 委員了承 ～

③その他

～ 事務局から、説明 ～

《竹口会長》

連町の三役会議がありますので、会議時にこの結果を報告したいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

《北原委員》

先ほどもお聞きしましたが、この会議は今回で節目をつけて解散ということではなく、組織は継続したまま、その都度出番があるという解釈で良いのでしょうか。

《竹口会長》

そのような捉え方で大丈夫です。

《貝田委員》

検証や地域へ周知していく作業は、7回目までの検討会議を参考にしてもらいたいと思います。今後2、3年後はこの委員でやることは基本的には難しいと思いますので、終了は終了で良いと思います。

《北原委員》

社協の会長という立場で来ていますが、任期もあと1年で終わります。今後新しい会長が出くるとは思いますが、しっかりと引き継ぎをし、意志を踏襲していくという部分については私たちの役割だと思います。

《貝田委員》

この組織のメンバーがこのまま継続していくというのはどうなのかなと思います。必要に応じて会議を再開するのは良いと思いますが、そのときの地域の皆さんの役割を考えて委員を新たに決めても良いのではないかと思います。

《高野委員》

基本的には、また各団体の皆様に打診させていただくという形になると思います。

《竹口会長》

メンバーの入れ替わりはあるとは思いますが、しっかりと引き継いでもらうというところに継続性があると思います。1度解散してしまうと、また0からになってしまうので難しいと思います。今年度は取りあえずこれで終了ということで、次回はメンバーが変わっても行うということでいかがでしょうか。

《貝田委員》

それで結構です。

《羽田委員》

地域自治システムに関わりのある講座がありますので、報告いたします。高齢者や住人が増えない問題などについて、NPO同士が連携をしております。例を挙げますと、厚別のもみじ台団地はすでに着手しており、コンサルティング会社が市と協力して行ったという経緯があります。実際に、どのように仕掛けていったのかというお話を聴くことができますので、是非町内の方もお誘いの上、ご出席をしていただけたらと思います。

《竹口会長》

先着20名ということなのでよろしく願いいたします。以上でございますが、よろしいでしょうか。

《高野委員》

それではこれを持ちまして、検討会議を閉会させていただきます。皆様大変ありがとうございました。

以上